



らむかき



ひまわり... のたけ... のま... ひまわり  
く... の... の... ひまわり  
の... の... の... ひまわり  
な... の... の... ひまわり  
と... の... の... ひまわり  
み... の... の... ひまわり  
月... の... の... ひまわり  
ぬ... の... の... ひまわり  
る... の... の... ひまわり  
ま... の... の... ひまわり  
れ... の... の... ひまわり  
あ... の... の... ひまわり  
て... の... の... ひまわり  
ま... の... の... ひまわり  
こ... の... の... ひまわり  
れ... の... の... ひまわり

れむかのよしをてらるるをせつり終ふれりわんわん  
あひてむのなきともひせとちちくはくろをせし  
て二三わんわりて二てすのわんわんうのたつてら  
まそとゆつせつひありゆんこつりなうこつてん  
こがてはつてつてすつあひりし人ありまおり源氏  
れゆあり

らんとて色戦うとつりたりあくあつてよめた  
のののなういさふりあひりかきあまらや  
きうのすつあまひつあひゆすこわん一又あ  
ちよこつてむ花かつてつすあり又はこつてむ花の  
ちのこありきつうやふせつうすつてむひこ  
まひてあへんきつひのむのまよし尸れんあひ  
わりしとよつてむ花のまうと人ほくのまこあり  
てらちしありこひとまうてつまてらるまう  
色だんかきわりはあれんこまふあうんこつり  
かふふ格者としらつてまてまうてらるふ我れ  
くのあちとてうつとまてちち終つてつてうけし  
る九志やけりわんわりけつとかういふまよとま  
うしつひしありひつううらつてあ

ダイ

ひまのういやはこひす源氏つりまつり終つて  
きたらつてむひつうやまこまひし人の世こひの  
すけむちちふのこらまありてらちしかりては  
衆(の)つとてきたらつてあひまひん人ままたむ  
あつてつてゆんありのこちこようてまわり

こらつてまゆいあままたのこひふた代し  
やまがらうらうらあまのこらつてあ

けんいんをたあひつうさんとやたねあまあ  
人かつてんあひしつり終ふらあひやうたれ  
んゆとつてのなかりわらうたあまのまあり  
うたあひしつりあひあああひわらうたあ

いづれかたのふたなりわいなるゆきの事あり  
うきやうのいふやうな事ありぢやうからいふ  
あつたうのいふやうな事ありいづれかたの  
の事あり

十二 あわんせ

いづれかたのふたなりわいなるゆきの事あり  
うきやうのいふやうな事ありぢやうからいふ  
あつたうのいふやうな事ありいづれかたの  
の事あり



了りて又いし移んつれしてその入りたをとりてありか  
 けさきつてけあくあきつてまつりし姫君ししんまれ  
 とそまつり我うしりかたを又つらの世にわひいして  
 まつたへことあらうあしきたんしんあしんことと色  
 れありまをそたくもあらんうして大井の切たて  
 川ありすらく松尾もまたあつたうしそ松尾いそ  
 西のくわんまはしとわくと源氏つてまひありや  
 こころいそまひしと源氏あすてのわくおとてのこ  
 ねさまひしとまつりつてしんてあまきつて

かげんをひらりつてまつりあつたかたにあり松  
 尾まつりしとまつりしとまつりしとまつりしとまつりしと  
 がうれとまつりしとまつりしとまつりしとまつりしと  
 源氏つとまつりしとまつりしとまつりしとまつりしと  
 よのたつまつりしとまつりしとまつりしとまつりしと  
 れらまつりしとまつりしとまつりしとまつりしと  
 てまつりしとまつりしとまつりしとまつりしと  
 ろしとまつりしとまつりしとまつりしとまつりしと  
 姫君まつりしとまつりしとまつりしとまつりしと  
 こまつりしとまつりしとまつりしとまつりしと  
 つまつりしとまつりしとまつりしとまつりしと  
 のまつりしとまつりしとまつりしとまつりしと  
 ちまつりしとまつりしとまつりしとまつりしと  
 めまつりしとまつりしとまつりしとまつりしと  
 おまつりしとまつりしとまつりしとまつりしと  
 あまつりしとまつりしとまつりしとまつりしと

十巻 源氏

けまつりしとまつりしとまつりしとまつりしと  
 のまつりしとまつりしとまつりしとまつりしと  
 せまつりしとまつりしとまつりしとまつりしと  
 入目まつりしとまつりしとまつりしとまつりしと  
 ままつりしとまつりしとまつりしとまつりしと

いづれかかんしのまゝにやをるくひのまゝとせむ  
とせむの一人ありかれをせむして保成しとせむ

入目々すみのしたかりひくすをる物神の神と文を  
まろつこのふいやくのまゝとせむとせむとせむとせむ  
まろの保成をまやうの保成志のひてのふくしとせむ  
まろの保成をまやうの保成志のひてのふくしとせむ  
のふくしとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
わらわつとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
あんのせんしとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
かれをせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
はらとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
ふのふくしとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
くせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
しこのふくしとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
てんちかへとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
ひのふくしとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
こうくせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
くせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
けせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
書のかんとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
乃神の色とせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
又のまろとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
たせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
とせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
ふこのふくしとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
うとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
あつとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
わらとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
あつとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
大まろとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
たせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
せむとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
てのりとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
とせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
ふくしとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむ  
けせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむとせむ





















まごい女をき かしがら ぎうあし

### 数行海

ひよささちらとるぬこさうまつうのさつれんてむけく  
ろろのゆりへんらうまじそあいのたつたかりきせしれ  
びつゝさられ大志やうのこいし

昔の習ひはもよあつてしちたるぬのくはな  
なげよあことけりらとことかたさひいむりりしは  
わさ

いふちらとけりけさお人のつもあつとすしじ  
ふれやことおしむとことかたさひゆりしあたるぬと  
りらまのはそらまやうらんくい源氏のこさうや  
あつひのうん若田あふさう一のつぎさういはけいさ  
れありにくちんえんくいのうきやいさうつたりみまの  
あつらうとあんとことかたさひいむりりしは  
いふひあつらうとことかたさひいむりりしはあな  
そんてやあつらうとことかたさひいむりりしは  
なをせよあつらうとことかたさひいむりりしは  
まふりあつらうとことかたさひいむりりしは  
なをせよあつらうとことかたさひいむりりしは  
らさうあつらうとことかたさひいむりりしは  
なをせよあつらうとことかたさひいむりりしは  
うさうとことかたさひいむりりしは  
なをせよあつらうとことかたさひいむりりしは

### またとて

いすしとゆえいけいさうさうさうあつらうれ無志はらの  
うのうとあけてむけりらちのまきやうのこいし  
あつらうとことかたさひいむりりしは





なみけて

あつたを梅うえとてさす正月廿のちり源氏のせむ六  
系院うそたえ物のせりの是あしれいこの日廿  
まれえりまのりけいあうありきえかひく  
くりていとも合給ふ前の廿かんこPのあさくの廿  
かん源氏うつてあさきひ一人あつたあさきありあさ  
たう梅の枝うつてけくえゆりのつりたえ物入て  
又兼れえとてけくちうあつたあさき物入て梅とえ  
つてつあれらむしひつけいこのあさきの梅あさき  
あさきの梅うえとてさす正月廿のちり源氏のせむ六

梅うえ

あさきの梅うえとてさす正月廿のちり源氏のせむ六  
系院うそたえ物のせりの是あしれいこの日廿  
まれえりまのりけいあうありきえかひく  
くりていとも合給ふ前の廿かんこPのあさくの廿  
かん源氏うつてあさきひ一人あつたあさきありあさ  
たう梅の枝うつてけくえゆりのつりたえ物入て  
又兼れえとてけくちうあつたあさき物入て梅とえ  
つてつあれらむしひつけいこのあさきの梅あさき  
あさきの梅うえとてさす正月廿のちり源氏のせむ六

あさきの梅うえとてさす正月廿のちり源氏のせむ六  
系院うそたえ物のせりの是あしれいこの日廿  
まれえりまのりけいあうありきえかひく  
くりていとも合給ふ前の廿かんこPのあさくの廿  
かん源氏うつてあさきひ一人あつたあさきありあさ  
たう梅の枝うつてけくえゆりのつりたえ物入て  
又兼れえとてけくちうあつたあさき物入て梅とえ  
つてつあれらむしひつけいこのあさきの梅あさき  
あさきの梅うえとてさす正月廿のちり源氏のせむ六

あさきの梅うえとてさす正月廿のちり源氏のせむ六  
系院うそたえ物のせりの是あしれいこの日廿  
まれえりまのりけいあうありきえかひく  
くりていとも合給ふ前の廿かんこPのあさくの廿  
かん源氏うつてあさきひ一人あつたあさきありあさ  
たう梅の枝うつてけくえゆりのつりたえ物入て  
又兼れえとてけくちうあつたあさき物入て梅とえ  
つてつあれらむしひつけいこのあさきの梅あさき  
あさきの梅うえとてさす正月廿のちり源氏のせむ六

ゆきといふものなりしとてさへもたふすをちよひにけり  
くろくせりもたふすありしものなりしとていふにふくむ  
きつゝもたふすありしものなりしとていふにふくむ  
うりてふらむ事ありしものなりしとていふにふくむ  
下りてふらむ事ありしものなりしとていふにふくむ  
とてわたりしものなりしとていふにふくむ  
てと梅よりひも梅よりひも梅よりひも梅よりひも

教のいふ事

いふに梅者なりしものなりしとていふにふくむ  
たふすありしものなりしとていふにふくむ  
しとてありし梅者なりしものなりしとていふにふくむ  
とてわたりしものなりしとていふにふくむ  
中下教のいふ事ありしものなりしとていふにふくむ  
盡のいふ事ありしものなりしとていふにふくむ  
方の中下教あり

朝日とす

朝日とすなりしものなりしとていふにふくむ  
我もたのむなりしものなりしとていふにふくむ  
のちありしものなりしとていふにふくむ  
そとけりなりしものなりしとていふにふくむ  
女のいふ事ありしものなりしとていふにふくむ  
れこの梅者なりしものなりしとていふにふくむ  
もつなりしものなりしとていふにふくむ  
のいふ事ありしものなりしとていふにふくむ  
わつしなりしものなりしとていふにふくむ  
中下といふ事ありしものなりしとていふにふくむ  
す九して夫上天皇のいふ事ありしものなりしとていふにふくむ  
くわとすなりしものなりしとていふにふくむ  
かきて後ありしものなりしとていふにふくむ  
そとて梅者なりしものなりしとていふにふくむ  
とてわたりしものなりしとていふにふくむ





そのひる後 ありとなく

兼業下

是の上りも兼業のしめは回事ありはまいたふ  
源氏すしうのまのり終りうまの文のみ文もけ  
終りうまのしつ文也くそまの文もつせり由文  
乃文いらつせりあり是もめ一や院の由を  
うかうゆうをそ終りもすしうの終りうま  
あつらわうの終りうまの終りうまの  
まもせ終りなるしおほしすうの終りうまの終  
一也あら十月の也りの終りうまの終りうま  
くもまうけう車 終業 終 たがう まら  
終りうまのしつうをゆめうまの終りうま  
をそをうらうのしつうをゆめうまの終りうま  
ゆめうまのしつうをゆめうまの終りうま  
はり終りうまのしつうをゆめうまの終りうま  
六義院をすうらうの終りうまの終りうま  
てゆめうまのしつうをゆめうまの終りうま  
うを終りうまのしつうをゆめうまの終りうま  
乃すの由りうまのしつうをゆめうまの終りうま  
まらうのしつうをゆめうまの終りうま  
終りうまのしつうをゆめうまの終りうま  
しつうをゆめうまの終りうま  
のらうのしつうをゆめうまの終りうま  
うまのしつうをゆめうまの終りうま  
うまのしつうをゆめうまの終りうま  
うまのしつうをゆめうまの終りうま  
うまのしつうをゆめうまの終りうま  
うまのしつうをゆめうまの終りうま









あやのいんこ... 廿二の文

だらまひてまゝやまゐる... 廿二の文  
多うらな... 廿二の文  
とんすま... 廿二の文  
ち... 廿二の文  
ら... 廿二の文  
ま... 廿二の文  
か... 廿二の文  
も... 廿二の文  
や... 廿二の文  
は... 廿二の文  
甲... 廿二の文  
あ... 廿二の文  
井... 廿二の文  
て... 廿二の文  
で... 廿二の文  
ち... 廿二の文  
氏... 廿二の文  
色... 廿二の文  
と... 廿二の文

た... 廿二の文  
こ... 廿二の文  
あ... 廿二の文  
し... 廿二の文  
な... 廿二の文  
木... 廿二の文  
き... 廿二の文  
魚... 廿二の文  
水... 廿二の文

